

令和6年7月2日（火）令和6年度第2回富山県成長戦略会議 議事要旨

<開催概要>

- 1 開催日時 令和6年7月2日（火）13：00～15：30
- 2 開催場所 県庁4階大会議室、オンライン
- 3 出席者（五十音順）
 - 安宅 和人 慶應義塾大学環境情報学部教授
LINEヤフー株式会社シニアストラテジスト
 - 朝比奈 一郎 青山社中株式会社筆頭代表CEO
 - 齋藤 滋 富山大学学長
 - 高木 新平 株式会社ニューピース代表取締役CEO
 - 土肥 恵里奈 株式会社ママスキー代表
 - 中尾 哲雄 富山経済同友会特別顧問
 - 中村 利江 エムスリー株式会社取締役
エムスリーソリューションズ株式会社代表取締役社長
 - 藤井 宏一郎 マカイラ株式会社代表取締役CEO
 - 藤野 英人 レオス・キャピタルワークス株式会社
代表取締役社長CIO
 - 前田 大介 前田薬品工業株式会社代表取締役社長
 - 藻谷 浩介 株式会社日本総合研究所主席研究員

<議事次第>

- 1 開会
- 2 挨拶
富山県知事 新田 八朗
- 3 議事
 - (1) 「人口未来戦略」の検討
 - (2) 今後のスケジュール

1 開会

2 知事挨拶

- ・ご多用のなか、第2回目の成長戦略会議にご参加いただき感謝申し上げます。
- ・先月開催の第1回の会議では、今年度の重点的な検討テーマである「人口未来戦略」について、特に、関係人口の拡大、そして深めることを切り口として、議論を始めていただいた。
- ・関係人口の数の増加、これも大切だが、一方で、地域の課題解決につながる強い関わりを持つ人を優先的に呼び込むことも重要ではないかというご意見、また、関係人口を拡大させるには、マーケティングの観点から、人を呼び込む「場面」あるいは「理由」、これらの深掘りが重要である、このようなご意見をいただいた。
- ・本日は、これら前回のご意見を踏まえ、富山県でのその「場面」あるいは「理由」にはどのようなことが考えられるか、富山の強みは何かなどについて、議論を深めたいと考えている。
- ・一方で、私を本部長として設置した「富山県人口未来構想本部」において、これまでの県の取組みの検証も踏まえて、本県の定住人口の減少を抑制する対策、また、人口減少下においても社会を維持していくための対策などについて全庁挙げて議論している。
- ・この本部会議に、成長戦略会議での議論を共有し、行政と民間が一体となった取組みを最新の知見あるいは大胆な発想により、生み出していければと考えている。
- ・本日も忌憚のないご意見をお願いしたい。

3 議事

(1) 「人口未来戦略」の検討

(事務局より資料1に基づき説明)

(2) 今後のスケジュール

(事務局より資料2に基づき説明)

【朝比奈委員】

- ・今日の論点の「場面」は、前回安宅さんがレイズされたキーワードだが、どういう時に関係人口がその地域を選ぶかという、圧倒的に、仕事・結婚・子育ての局面、あるいは最近だと介護のニーズという形で、そこに関わったり、場合によっては移住したりしている。
- ・そうしたところで特に県が打てる施策という、やはり伝統的に、仕事という場面。例えば寿司職人になりたいとか寿司という仕事に何か携わりたいということであれば、おのずと関わるようになるし、仕事の類型というか、特に強調して打ち出したいことというのは非常に鍵になるだろうと思う。これが伝統的なアプローチ。
- ・もう一つ、非伝統的アプローチというか、これから重要になっていくアプローチが、まさにさっき言った結婚とか子育てとか介護とか色々考えた時に、どういう風にその地域と関わっていくかという、どちらかという暮らしの方。
- ・内閣府で少し前に、まち・ひと・しごと創生本部を作ったチームなどと色々議論したことがあるが、彼らも元々は、何か仕事があって人が集まって街ができるという仕事・人・街みたいを考えていたらしいが、よくよく議論していくと、最近の流れとして、暮らしが魅力的だということで、街があって人が集まってきて仕事ができるという順番になってきているというところを見据えてネーミングしたらしい。暮らしの魅力をどう打ち出すかが重要。
- ・例えば私事になるが、自分の会社の社員も今1人富山にいるが、カップルで岐阜出身で、どこで暮らして子供をつくってということ色々考えた時に富山ということになったみたいで、今富山にいて、もしかすると藻谷さんの言うところの風の人になるかもしれない。結婚して暮らして子供をつくるという意味ではいいよねということで、富山に東京から移住した。
- ・これは前回も言ったが、どういうところに暮らしの拠点、あるいは二地域居住なのか、本当に移住するのか、たまに訪れるのか、暮らしの一部としての富山、場所ということ意識する時に、非常に大事になってくるのは人のコミュニティだと思う。
- ・前回そんなに面白い人はいるかという議論もあったが、かなり面白い人たちやすごい人たちがいらっしやると思う。面白い人たちがいることをうまくプレイアップして、ライフというところで、是非、富山に関わりたいという流れを作っていくことが大事なのかなと感じた。

【安宅委員】

- ・風の人云々の議論はこの前言っていたノマドの話そのものだと思っていて、数週間、数ヶ月、数年いる、冬だけやってくるとか、そういう類。人間の数は増えないので、色々な来る理由を言った方がいいという話をした。
- ・富山ということを考えると、僕は少なくとも3つはあると思う。
- ・1つはリトリート、ワーケーションでもいいが。いい所なので、飯はうまいし水もいいし、とりあえずやってくるという類のもの。2~3週間いたら多分元気になって、東京なり大阪に帰ってもやっていけるかなという、疲れたらまた来るみたいな。疲れたら来る場所というリジュビネーションできる空間として徹底的に磨くというのは1つあると思う。
- ・そう思うと、ステイできる場所が絶対いるが、今のところあまりない。今、都心部にしかまともなステイ先がない。だから前田さんがやられているものの延長とかに多分何か道があると思う。むしろ何のリトリートにもならない所ばかりに宿があるので、それは変えないといけない。
- ・2つ目は、富山は元々ヘルスケアチック。富山大学の膵臓・胆道センターという日本でも屈指の肝臓系の病気などのセンターもあって、医療レベルもとても高くて、薬もいっぱいあって、水もいいし米もいいので、ここにいたら元気になるというのはあると思う。昔のサナトリウムではないが、富山に半年か1年いて元気になって帰ってもらう。何度帰っても疲れるんだったら、富山に戻ってきて移住してもらうという類のものは、すごく分かりやすいバリュープロポジションとしてあると思う。
- ・3つ目はさっきも出た子育てと人づくり。私の周りで、東京にいるので中学受験などで疲れている人たちはいっぱいいる。子供も。富山にいたら気楽極まりなくて、東京の基準で言ったらかなり楽な勉強で全日本クラスの高校に入れるので、これは猛烈にいい。中学受験に疲れた人は来いと言うと結構な才能がやってくる可能性は多々ある。普通教育だけではなく、職業教育も相当充実しているし、デザイン系の人はやたら富山に行く。高岡周辺がデザインセンターみたいになっていて、奥には井波のような日本一の彫刻の街もあり、そういう彫刻・デザイン等の、手を使って何々みたいなタイプの人づくりの1つのセンターになり得ることはほぼ間違いなくて、そういう人作りの話はあると思う。
- ・それと先ほどの子育ての話だが、育てるためのサポートというか経済的なコストをし

っかりと持てる空間にすれば、これだけで実は無限にやってくる。北欧みたいに、大学等の費用は全面的に支えられるとか。あと、結婚して子供どうこうとか言っているから子供が生まれないので、中等教育を終えたら大学生だろうがなんだろうが、若くとも子を持ち得る社会にしないといけないことはほぼ自明だと思う。そういうことをウェルカムする組織というか社会にするんだということを、富山が明確に打ち出すということと、リアルで人が多く集まるような大規模な高等教育機関であるとか職場の場合は、必ず子供を預けられるような場所を作る。富山は幸いスペースがいっぱいあるため、すぐできると思う。あとは事実婚的なものを全面的に認めるような仕組みみたいな、渋谷区の同性婚パートナーみたいなものがあるが、あれの延長みたいなものでもっと簡単だと思う。それはできると思う。

- ・ここから先リモートワークができない職場というのは多分子育てに全く向いていないという理由で潰れていくと思う。基本的にリモートワーク可能な職場を劇的に増やす必要があって、富山はたくさん増やすと。ホワイトカラーのところは基本リモートワーク可能ということにして、週1日2日来ればなんとかなるぐらいの職場をすごく増やせると実はこれだけで結構サポートになると思う。さらに1日1~2時間しか働けないお母さんとかお父さんとかいっぱいいると思うが、子育てをやって、それでもちゃんとその1日1~2時間分のものをバリューベースで、時間じゃなくて対価が払われるような仕組みを入れてしまうことが本来望ましい。これができると労働時間じゃなくてアウトプットベースで、富山では比較的ちゃんと評価されて、企業としてはアウトプットが出ているから払えて、win-winなので、それをやると。
- ・保育園とか学童の受入れキャパがないということは富山県においては多分ほとんどないと思うので、これもどんどん打ち出してどんどんやるというようなことを全面的にやると、子育て・人づくりなら富山というのは、実は1個の巨大バリュープロポジションになりえる。小中高か大学の時とかに5~6年いたら必ず愛着が生まれるので、5人に1人ぐらいステイする可能性が、場合によって半分ぐらいステイしてくれる。高木さんや僕みたいに出ていってしまうかもしれないけど、少なくとも愛着・感謝の気持ちは持つと思う。だからそれだけでも価値がある。
- ・ノマドステイにも、富山でリトリートでよみがえるというのと、ヘルスケアでよみがえるというのと、子育て人づくりで疲れた人がよみがえるというのを、「よみがえるまち、富山」みたいにして、よみがえる系のもので、その3つは大きな切り口として使えるのではな

いかということを知っていて思った。

【藤野委員】

- ・非常にワクワクする話が続いていて、私もこの場において非常に力をもらえるが、来てもらう話がすごく多かった。もちろん来てもらうということがとても大事で、それが最終目的だと思う。ただ、私がいつも地域創生の話で富山県以外でもする時に、とても重要だと思っているのは、来てくれと言っても行かないというのはあまりバランスが取れていないと思う。実際に活気のあるまちというのは、来てもらうと同時に行くということも結構重要だと思う。
- ・風の人という言葉があった。風の人とは安宅さんの訳すと、ノマドな人だが、ノマドな人というのはおそらく全国にいるが、富山の中にもいるということだし、元々その超ノマドだった人たちが薬売りだったと思う。だから、その風の人とか薬売りという、富山県の中にそういう伝統というか歴史があるというところはものすごい強みではないかと思う。
- ・その中で僕らがより旅をして、会うと友達ができるので、友達ができたら、その他の地域の人と富山という所に関わりが持てる。そうすると富山県に行く理由ができるということになる。
- ・もちろん、マーケティング的にWebで伝えるとか、何かものを買ってもらうというのが大事だが、一方で、人というのは最高のコンテンツなので、富山県人が何らかの形で、元富山県人でもいい、富山に対する何らかの思い入れを持った人が、他地域において富山の人と交流を深める。そうすると結果的に富山に対する各人の心の中のマインドシェアが高まるということだと思う。
- ・これから重要なのはどういう人に来てもらうかという類型の話もあったが、一方で、日本人の心の中で地域というものを思い浮かべた時に、富山県がどのぐらいの比率で思い浮かぶかというシェアの問題が重要だと思っている。
- ・富山県人は、自分の地域としての富山県というのは7割から8割ぐらい思い浮かべて、奥さんの実家とか旦那さんの実家とか関係性になるところを思い浮かべる、もしくは大学で勉強した所とかを思い浮かべると思うが、他地域の人にはなかなか47都道府県の中で富山県がマインドシェアの中に入っていないと思う。このマインドシェアをどう作っていくのが大事だと思う。
- ・ここからは予算の問題などがあるので、ただの思考実験的に話すと、例えば、富山県

の人と友達になって、その人を尋ねてその人と一緒にご飯を食べると富山県割があるみたいな、富山県の人とご飯を食べると外部の人はみんな富山県割で外食が食べられるというようなことがあると、結果的に、富山県であることによって他地域の人を連れてくるイメージがあるので、富山県人1人1人がマーケティングマンになっていくと思う。

- ・あとは、高校とか中学とか小学校で、他地域にただ遊びに行くような形の修学旅行とかではなくて、他地域の子供たちと交流する機会を作ると、確実に交流した所の人たちを富山県に引きつけることができるので、またいつか来てもらおうということが出てくると思う。
- ・来てもらうこと以上に、どうやって富山県の人を他地域に運び出すか、県外流出させるという意味ではなくて、遊びに行くとか友達を作るというような意味の交流回転数を上げることが結果的に重要で、そちらの議論も少し頭の中に入れてもいいと思った。

【土肥委員】

- ・資料を見ると、関係人口となる可能性が高い人の属性の多くに転勤者という言葉が入っている。私も普段富山で仕事をしている中で、転勤になった本人ではなくそこについてくる家族の方、転勤妻に当たる方と接する機会があり、肌感覚的だが、富山に転勤になったと言われてわーいと言っている人はあまりいないと感じている。まずはマイナスから。どこの地域であっても、自分の生まれ育った場所もしくは慣れ親しんだ場所から違う所に、自分の意思とは関係なく、例えば旦那さんの仕事の関係で勝手に時期が決まって引越しになるということに対しては、割とマイナスのスタートを抱える人が多いという印象。
- ・そんな方たちでも地域のコミュニティに入っていく、例えばそこで友達ができる、仲間ができる、子供が何かのコミュニティに入っていく、保育園だとなかなか子供同士の横の繋がりをまだ子供もよく分かっていないかもしれないが、小学校に上がると例えば野球を始めた、サッカーを始めたとなると、そこでまた親のコミュニティができたり、子供が親以上に強い絆に気づいたりする場面があると思っている。
- ・ここ数年、転勤族の方、転勤妻の方たちが本当によく出入りされるが、子供が小さいうちは早く地元に戻りたいとよく言われる。ただ、富山に転勤になった、また離れた、また富山に転勤になったという方、2回目の富山という方もいらっしゃる、そういう

方々は富山に来たらまた友達がいる状態からスタートするので、子供にもコミュニティがあって自分にもこっちに友達もできて前ほど早く戻りたいとは言っていない。

- ・やはり子供のためにもどうしようと迷ったりすることがあるので、転勤者本人は会社というコミュニティにそのままいられるのでよいが、そこについてくる家族はコミュニティゼロから始まるので、転勤者に限らずだが、富山に来て仲間・友達を作るところに入って行くのは、方言や色々な文化の違いもあり難しいと思うので、そういったところの窓口になるような場所が必要なのかなのか。アテンドしてくれるような人がいるとか、そういうものがないと、下手すると転勤でついてきた家族の方は早く地元に戻りたいと言って、3年ぐらいいして地元に戻って、子供が小学校に上がった程度は単身赴任で行ってらっしゃいで、富山にはもう2度と来ない可能性も十分にあるなどと思う。
- ・転勤族の方はかなりいらっしゃると思うので、その家族というところに、富山は色々転勤族に向けてしていると思うが、まだまだそこは必要なのかなと感じたので、人と人をつなぐ役割をする人を育てていくということも必要と感じた。

【前田副座長】

- ・先ほどの藤野さんの話ではないが、僕は、色々声をかけられることと自分から能動的に動くことと両面合わせて、月の半分は富山にいない。我々の事業領域だけではなくて、しあわせデザインのチームが色々活動しているところに、僕1人か2~3人で動いた後、大体帰りは15人か20人が富山に来てくださっている。これが1週間に1回か、少なくとも2週間に1回、そういう動きができています。そういうレバレッジというものが効いている。僕が1人ないし2~3人動くと2~30人が来てくれるという動きが出る。例えば、最近話した梶田隆一郎さんだと、最近はまだ動けないくらい岩瀬に来てしまっている。彼1人が1回動くと、その後100人、1000人が来るという話なんだと思う。動けないと困っている。
- ・関係人口は、つまりはまず流動人口だし、多分積極的に動く運動人口みたいな話になってきた時に、まずこちらからも積極的に動く人というのは、キーパーソンが関係人口作りの原点になるだろうと思っている。
- ・関係人口、運動人口が増えてきた時に、風の人も含めて出入り自由な雰囲気すごく大事だろう。つまり、受容性と寛容性という話。せつかく1丁目1番地にウェルビーイ

ング先進地域とうたうのであれば、それは自分らしくいられるということだと思うので、自分らしくいられるということは、例えば先ほどの安宅さんの話ではないが、生き返るとかよみがえるということが1つ。ウェルビーイングを1丁目1番地に置いて、生き返る・よみがえる、そしてそこに受容性と寛容性がある出入り自由であるというところに引っ張られる富山県と東京等々を往復している人、レバレッジをかけられる人に注目をすべきだし、そういう人を輩出・創出して行くことは大事。

- ・こういう話はどうしても抽象度が上がるが、その人が1人動いた時に何人が帰ってきてどれくらいのお金や経済が動くかということシビアに可視化すると、より具体策を立てられるのではないかと思う。

【藻谷委員】

- ・安宅委員がおっしゃっていたことの中で特に大事だと思うので強調したいのは、戦略的にはリモートワークをする人を狙うというのはいいのではないかと思う。仕事が富山にあるので、例えば薬品関係で富山に住むというのはもちろんあるが、どこに住んでもできるリモートワーカーの人がいる、特にIT系の人で。そういう人たちが選んで富山に住むと。永住しなくてもいいと思う。風の人でいいと思う。軽井沢あたりに人が集まっているという話があるが、軽井沢ではなくて、ちょっと越えて富山に住んでいるということが、軽井沢にそういう人がいるらしいというのと同じように、世の中で広まるような戦略を取るのはいいいのではないかと思う。
- ・そう思う理由を2つ言うと、1つは、中途半端ではあるが敦賀まで新幹線ができたことで、金沢で乗り換えるより敦賀の方が楽。仮に、リモートワークしている人は、出社しないといけない時に新幹線の始発で行くと、東京に8時半に着くわけだから9時に全然間に合うし、大阪も9時6分なので9時半には顔が出せる。しかも新大阪ではなく、大阪駅。実は、名古屋とかと同じような感じになっている。つまり、東京や大阪に行かなくてはいけない時に、富山はどちらにも簡単に顔が出せるようになっている。毎日だとお金がかかるが、1週間に1回とか月に1回2回なら気軽に行けるという状況に富山がようやくなったので、リモートワークでたまに出社しなくてはいけない人には、太平洋側と同じようにイコールフットィングで考えることができるようになった。
- ・もう1点 は、アイオワ州というアメリカのコーンベルトの田舎の小さい町、まさに井波、新湊ぐらいの町で、都心部の中心市街に通りが1つくらいしかないのだが、再生事

例の視察を主催して行ったのだが、実際行ってみてびっくりしたのは、町は小さいが多くの人が歩いていること。1番近いシカゴまで3~4時間車でかかる。カンザスシティとかセントルイスとかミルウォーキーとか大したことない大都市が3~4時間遠くにある、そういう小さな街になぜ住んでいる人たちがいるのか。それはリモートワーカー。リモートワークをしながらシカゴとかに行ったりすることもある人が結構いる。あるいはその州内でもデモインという富山みたいな街で仕事があるんだけど、そこから1~2時間離れた氷見みたいな所に住んで、たまに州都に行くという人が増えている。アメリカは日本よりもより職種がはっきりしている分ジョブ型の雇用なので、リモートワークがしやすく、一気に普及したために、なにも大都会の地価の高いところで住まなくてもいいよね、地方でいいやという人の流れがすごくはっきりしてきていると話には聞いていた。ちなみに、そういう人たちが田舎に住んでも満足できるように必ずあるのがおしゃれな地ビールレストランとそれから本屋が増えている。個性的な個人商店、書店が増えている、あと自転車屋。アウトドアをする人が多い。アウトドア系の店が商店街に入っているが、これを見ながら、富山でもこういうことがいずれ必ず起きていくのではないかと思った。アイオワと似ているので。

- ・是非1つの戦略として何か調べて、リモートワーカー、こういう人たちは富山に行くのが今トレンドとしてあるよ、3~4年住んでみて。特に子育て中の場合はリモートワークしながら子育てするには非常にいいよということを売りにするのは強く戦略的だと思った。

【齋藤委員】

- ・暮らしやすさのランキングでは常に富山が全国のトップ3に入っている。仕事の1世帯あたりの収入それから共働き率も上位。それから子育て。これは教育レベルだが、小学校中学校の全国の学力・学習状況調査ではいつもトップ5に入っている。そういう情報を全国の人にはほとんど知らない。これをもっとPRしてもいいのではないかと思う。いいところをどんどんPRして、じゃあ来てくださいよということ。
- ・前回シングルマザーとかシングルファーザーの方に来てもらってもいいのではないかと考えたが、例えば仕事が非正規職員で子育てをされるととても大変だが、富山に来て、これは企業側とも協力が必要だが、そういう優秀な人材を正規職員で採用して、子育ても十分やるし、それから教育レベルも高いから安心してきてくださいとい

うことになれば全国からおそらく来ると思う。かなり優秀な方が来ると思う。

- ・それからもう1つはリモートワークできる職場を増やすということだが、県の方からも企業に働きかけてもらって、どれくらいの企業がリモートワークできるのかというのでも調べてもらって、そういうデータも元にPRすると全国から優秀な方が来るし、住んだらいい所であることを再認識してもらえるとと思うので、これはいいよとなったらまた他府県から人材を呼び込んでもらえるというプラスの効果も現れるのではないかなと思う。
- ・そうしたことも含めて産業界とも連携して是非ともPRをしてもらいたいと思った。

【中村委員】

- ・来てもらう理由とか強みとなる場面を作ろうということだが、資料を読んでいたら、これは富山県でなくても北海道でも沖縄でも当てはまるのではないかなと思った。外から富山に住むとしたらどうかと思ってみると、良さそうだけど食べ物も美味しそうだけど、なぜ富山である必要があるのかということはまだ明確になっていないのではないかなと感じた。どの県もこういうことを考えていると思うので、ある程度のターゲットを作って、そこに当てた政策をする必要がある。
- ・あとは、富山が元々強い、先ほど安宅さんがおっしゃったヘルスケアのところだと、「富山で休もう。」というポスターが今でも貼ってあるかもしれないが、すごくいいキャッチフレーズだと思った。例えば、女性の癌の第1位が大腸癌ということをあまり皆さん知らないが、実はアメリカの癌発症率はすごく高かったのに、10年前から日本の癌発症率の方が高くなった。どんどん逆転して差が開いている。なぜかと言うと、アメリカは10年に1回は大腸検査を無料でできる制度を入れたからということで大幅に減った。これは費用にしたらすごく安いと思うし、例えば、富山のクリニックとか病院はその大腸癌の検査を安くと言わなくても、積極的に受けようということだったり、ただ大腸癌の検査って嫌じゃないですかみんな、事前の準備とか。そしたら、大腸癌の検査は嫌だけどその後美味しいものが待っているよとか、いっぱい休めるよみたいなパッケージで、医者だけではなくてレストランとかホテルとかとも連携して、体をメンテナンスするために富山に休みに来て検査を受けようみたいなこととか、そういう具体的な連携をやった方がいいような気がした。
- ・もう1つは、大腸癌を気にする人達は割と年上の人たちが多いと思うが、これからは若

手とか子育て中の人とか子供たちにすごく来て欲しいと思うので、そこの政策も欠かせないと思う。

- ・前回、1人親家庭の方を呼んではどうかという話もしたが、すごく困っていて、仕事も探したいし絶対働かないと食べていけないから仕事をしたいが、子供が小さいとリモートでないとできない。私どもが最近採用した人事の人も大分県に住んでいるが、リモートでないとダメだからということでいっぱい断られたと言っているが、すごく優秀。そういう優秀な人をリモートでとれるチャンスはそろそろ最後にかけていて、そういう優秀な人たちを企業もとらないといけないと思ってきているが、それを富山県の企業が先じて、子育て中の方々リモート歓迎だよみたいなことをやっていくとか、これから必ず起こるであろうことを先んじて富山が旗振ってやっていくようなことで、富山といえば大腸検査が受けられるけど、ゆっくりできるんだよねとか、子育てがすごく天国みたいな所だよみたいなことを、せっかく「富山で休もう。」というキャッチフレーズがあるのでそこに紐づいてやっていくという具体的な政策まで是非考えてもらえたらと思った。

【安宅委員】

- ・元気になる富山、ウェルビーイング県なのでここに来ると元気になって帰る。子育て、疲れでも何でもいいから疲れた人みんな来て、ここに来たらみんな元気になって帰るというだけでもすごいポジショニング。
- ・東京とかは保育園とか学童が結構問題になっていて、1番の問題の背景は、保育士とか学童の先生等に対する待遇が悪すぎる。あんなに大事な仕事にも関わらず、まともな待遇がされていない、この世で1番重要な仕事の1つなんだけど。なので、富山は世界レベルの待遇に変えるみたいなことをやってしまうのはすごく重要だと思う。そうすれば、日本一の人は全部集まる。東京からでもどこからでもピカピカの人が集まると思う。ある種、自治体の腹1つでできることだし、相当変わると思う。県からしっかり補助をかけるとか、基礎自治体に上乘せするみたいなものができるといいと思う。
- ・それと、先ほどの、ちゃんと子供を預けられる空間があるとか、お父さんしかいない家とかお母さんしかいないとか、これは私の周りでは普通。これはできる人になればなるほど普通になってくる。これは統計の真実なので、多分富山もそうなると思う。そういう人たちにとっても働きやすいような職場だとか場所というのをちゃんと

recognizeして、そのダイバーシティ的な配慮がちゃんとできているものは表彰されるみたいな仕組みを入れるのは結構いい。

- できていないところをあげつらってもしょうがないので、素晴らしい人をとにかく褒めるということをやっていくうちに、周りの人は勝手に引っ張られるし、褒めた時にかっこいいマークを付けるとか。この間、柏崎刈羽原発に行ってきたが、柏崎刈羽だととてもいいことをやったベンダーの方はブロンズのシールとかを貼っている。たくさん貼ってあるヘルメットの人はとても誇らしいらしい。それみたいに、ベタベタに貼ってあるみたいな職場とかをいっぱい増やすと、非常に良くなるのではないかな。
- 県でまとめてくれた地域の活性とか企業団体の課題解決、これは私の言っているオケーションではない。企業団体の課題解決を目的に富山に行く人なんていない、コンサルタント以外には。そうではなくて、行く理由の話をしている。子供を育てるとか体が元気になりたいとか、疲れたから行く、これが行く理由なので、かなりずれている。
- ワークーションだけとかだとちょっと緩すぎる。もっと明確に富山に行く理由が欲しい。子育てはソリッド。人間が一生にあたって何千万級のお金を使う理由は4つあって、1つはヘルスケア、2つ目は教育、3つ目が家、最後は老後。ヘルスケアの話は、この教育と家という最大級のものに直接アドレスしている。そこに直結している話で、行く理由になるものが明確に必要なだということを言っている。
- 先ほどヘルスケアのところでは言ったが、富山大学の膵臓・胆道センターは日本トップレベルで世界レベル。日本中から人がやって来る。先ほど中村委員がおっしゃっていた大腸癌は本当に大問題で、癌死因では女性1位、男性も2位。富山に行ったら無限に無痛で下部内視鏡検査が15分ぐらいできて、ポリープを取れるだけ取ってくれるとか。東京の医者だと3つしか取ってくれないので、富山はもう無限に取る、10個でも20個でも全部取ってくれるみたいな、「根こそぎ取る富山」みたいなものをやると、みんな富山に行く。富山に来たら、全部根こそぎ取ってくれる、2回ぐらいやったら胃腸全部綺麗になって帰れるといたら、10日ぐらい遊んで帰ってもらって、いい所だわ、やっぱり家でも買うわとなるともっと最高。ソリッドな理由にしないとダメだということを言いたい。
- 4つめの老後は引退後の話。15年ぐらい前から結構クリアだが、一般的な老後の備えは80歳ぐらいまでしかない。でも、日本は今、女性の死亡年齢最頻値が92歳で、男性は88歳。実際は多くの人が90歳ぐらいまで生きている。なので、サードライフ、セカン

ドライブの後の金まで含めて、今貯め始めていて、そのせいもあってこの社会は金の出が悪い。この老後というのが、実は2枚重ねなのだが、多くの人がシニアライフ用にもう1個金を寄せている。それをしないと生きていけないと、みんな不安に感じている。多くの人は自分が95歳まで生きた時の備えをしている。

【中尾委員】

- ・この春、インテックの元社員が無くなり、東富士の大きな墓地へ行ってきた。富山県人会の大きな墓地、吉田実元知事のお言葉の碑もあった。東海道が混んでいて帰りは東京まで4時間半もかかった。
- ・そこで思ったことは、ふるさと富山にお墓を作ってはどうか、ということ。全国に、ニューヨークにも県人会がある。富山のお墓へお彼岸、お盆にお参りに来る、富山に移り住む人も出て来るかもしれない、これは関係人口以上のものだと思う。
- ・資料には、ワーケーション、伝統、食の魅力、豊かな自然、ゴシックで大きく書いてあるが、経済関係は小さい。多種の企業集積、これが関係人口を絶えず大きく集めている。経営者よりビジネスマン、技術者が主役。もうちょっと大きく書いてほしい。

【藻谷委員】

- ・天気が悪いということ富山に住んでいる人は必ず言う。天気がいい時は非常に爽やかで絶景だが、確かに天気が悪いというか、ぶり起こしみたいなものが出てくるとわっという雰囲気はある。天気が悪いと言うが、そのしのぎ方というか、逆転の発想があるみたいなことが訴えられると、あまり自虐的な言い方ではなくて、こういう風にして逆転しているということがあると、住んでいる人にとってより参考になるような気がする。例えば、昔から住んでいる人はすごく天気が悪いと言うが、全然気にならないという人がいるかもしれない。サーファーとかで波がある方がいいとか。実際、昭和の時期に比べると天気がいい、昔に比べるとずっといいので、昔のイメージで悪い悪いって言い続けている人もいると思う。他方で、例えば、富山に住んで、信州の高原、上田辺りに部屋を借りていて、天気が悪い時は1年中晴れている上田の方まで1時間ぐらいで行って暮らしているとか、東京にも家を借りていて、天気が悪い時は行った来たり、東京は逆に夏はすごく暑いので、そういうすごく暑い時は富山に避難しているとか。二地域居住的にアピールするとか、あるいは富山は家が広いので、す

ごく立派なオーディオルームだとか映画鑑賞ルームを持っていて、そこで全然快適に過ごしているとか。多分そういう人が多いと思うのだが、悪い悪いと言われていること、富山の人が言っていることに対して逃げずに、今の時代そんなことないのではないかということ打ち返せるようなやり方がなにかないか、住んでいる方には是非聞いてみたいと思う。

- ・ちなみに、東京の、夏がすごく暑い、特に人工的にクーラーの副射熱ですごく暑いということに対する対策というのは、前向きには、対抗してクーラーをかけるというのしかない。却って周りの環境がどんどん悪化するという、非常に周りに迷惑をかけて対策するか、あるいはよそへ逃げるかどっちかしかない。富山の場合、よそに逃げるという解決もあるが、実は居ながらにして今のオーディオルームではないが、全然対策できるよという、しかも周りに別に迷惑はかからないということがあるといいと思う。

【前田副座長】

- ・化粧品メーカーのポーラさんが、1年に1回日本一の美肌県というのを決める。6~7年前に富山が1位になった。その他の年は時1位が石川や島根などで、日本海側に集中していて、要は日差しがないという話。結局、ポーラさんは島根県と組んで、美しくなりたいなら島根県ということで徹底的に肌を美しくするツーリズムがすごく人気になっていて、色々な女性が来ている。非常に経済インパクトが大きいかどうかは別として、天気が悪いというものを逆手にとって女性の美容とくっつけたという話があって、実は前田薬品も富山県の美容ツーリズムにおいてポーラさんと今いろんな試作をしている。ポーラレディが全国にいて、ポーラのファンがいっぱいいて、そういう文脈でヘルスケアをもうちょっと拡張すると、アンチエイジングとかビューティの領域、こういったところもツーリズムと産業とセットで拡張できる要素で、それは天気が悪いということ逆手にとった1つの事例。

【土肥委員】

- ・天気問題は結構富山のマイナス要素。こちら側は富山に限らずだが。今の時期だとなぜか週末だけ雨。ちなみに9月10月も毎年週末だけなぜか雨みたいなのがここ数年続いているなど思っている。雨降ったらどうするというのも、富山県にずっと生まれ育

ってれば雨の日どう過ごすかはもう慣れているので掃除でもするかとかなるが、県外から来る人にするとたまたま富山に遊びに来た日に、楽しみにしていた立山が見えないとなると、賭けぐらい天気がいい日が少ないなと思っている。

- ・天気は誰もコントロールできないので、どうにもならないが、過去に話したように、自然豊かさは豊かだが、雨が降ると外では遊べないし、自然の豊かさよりも湿度の方が、子供でもじめじめして気持ち悪いと言っているぐらいなので、自然の豊かさがあるのに天気の悪さがそこをどんどん相殺していく印象は感じている。子供とどう過ごすかという視点で見ると、晴れていれば外で遊ぼう、公園に行こうとかできるが、雨が降ると一気にそれができなくなって、限られた商業施設に皆さんぎゅうぎゅう詰めに集まっていく状態が続いている。例えば富山だと太鼓山ランドにこどもみらい館という素晴らしい施設があると思うが、こどもみらい館も駐車場からトレインに乗り換えて移動すると結構雨の中だと大変だからやめておこうとなる。富山でも最近公園が増えたが、全部もちろん外にある公園なので雨の日遊べない。これから真夏は火傷が危ないので公園では遊べないとなるので、全天候型の遊べる場所、別に体育館でもいいと思うが、それがないと本当に子供と過ごす場所、自由に遊べる場所、のびのびと過ごせる場所はすごく少ないと思っている。前回同様になるが、石川はすごくそれが充実してきていると隣県と比べて感じている。富山は雨の日過ごせる場所は2~3箇所しか思い浮かばない。新川にできるものに期待している。

【齋藤委員】

- ・やはり発病してから治療するというよりも、予防するということが非常に重要で、非常に食の価値が高いんだということが再認識されている。前田さんがやられているハーブとかそういった食、それから、富山県は元々和漢薬をずっと薬売りで運んだという形があって、和漢薬は食をうまく調整したような薬なので、そういった形でPRしてもらって、例えば富山に来て健康になってもらうことで、来訪者が増えるでしょう。例えば、和漢医がたくさん富山にいたので、「証」と言うが体の状態を診てもらって、あなたはこういう野菜が不足している、こういう漢方薬を飲んだ方がいいとか言ってもらって、それで、いわゆる美味しいものを食べ、それから健康に即したようなものをセットにして来てもらうと富山に来る価値はあると思う。
- ・江戸時代から始まった伝統医学というのは、日本ではだんだん廃れてはきているが、

東南アジアでは主たる医療だし、インドもそうだし、アフリカでもそう。世界的に、樹皮とか木の根っことか色々なものを使って健康食品として扱っているの、それを見直して、県としてこういったものを事業化できると思うので、観光業者と医療サイドと宿泊業者と飲食店ともチームを組んでやるとすごく大きなプロジェクトになるのではないかと考えている。本当に食べることというのは医療に繋がるし、健康にもつながるので、そのことをもうちょっとPRできるのではないかとと思う。

【前田副座長】

- ・今ヘルジアンウッドを中心に、医療とヘルスケアツーリズムを本格的に実装しようということで、旅行業を取得し、ヘルスケア、メディカル、特に予防医学的なツーリズムをしっかりと作ろうということで専門のチームを作り出したところ。関係人口を作っていく時にその先とかその前後に新しい産業をどう作るかというのは、この前段の成長戦略会議で、新しい富山の産業をどう作るかという時に、観光というものを定義し直して作った方がいいということはずっと述べてきたが、外貨を獲得するという観点で考えると、日本の外貨獲得の産業として1番でかいのが自動車の17兆円で、次に多いのが半導体ではなくて、観光がもう7兆円までできている。つまり自動車に継ぐ一大産業が外貨獲得産業になっていて、それはあくまでインバウンドの話。観光業でいくと、今もう25兆円のマーケットがある中で、観光の大きいマーケットに対してちょっと尖ったものを自治体が出していくということに関して言うと、富山といえば健康、ヘルスケア、お薬、医療を中心軸とした観光やツーリズムというものは、「富山で休もう。」とか、富山でよみがえると言った時に、文脈価値としては非常に結合しやすいと思う。
- ・もう1つ加えると、藻谷さんも時々おっしゃっているが、東京がとにかく人口集積しすぎていて、人口が集積すると、当然、物価、家賃も含めて上がってきて、可処分所得でいくと圧倒的に富山の方が高い。1世帯あたりの貯蓄額が富山は高いと言うが、因数分解すると1人当たりの可処分所得は圧倒的に富山が高い。これから人口はどうやっただって減る。人口が減ると労働力が減る、イコール日本の総労働時間が減る。それはAIとかロボットに取って代わるものがあるって、余暇が増えてくる時にお金がないとその余暇の楽しみ方のバリエーションがない。そして、高付加価値な産業を作っていく時に、富山の薬の産業は実は付加価値は高くない。なぜかという、下請けが多いから。そうした時に、AIロボットに取り代えられず、いわゆるサービス企業として付加

価値の高い、富山だからこそできる新産業としては、マーケットサイズも大きいし外貨を獲得するという点で、観光というものを、昭和・平成のパッケージ化された観光ではないものとして定義し直して、これまでの産業と組み合わせると、本当の意味の産業観光で、観光を地域の総合戦略として位置付けられるのではないか。こういうような仮説を持って、今ツーリズムを製菓会社として増強しようとしている。

【藤井副座長】

- ・先ほどの雨の話について、世の中には雨が降っていて天気が悪くても人気の街はいっぱいあると思っていて、先ほど藻谷委員から紹介されたアメリカ中西部、あそこもものすごく寒くてもものすごく暑くて、雹は降るわ竜巻はくるわというところでもない所。シカゴとかミネアポリスだとか、ああいう所は天候が悪くても、カルチャーがあって色々先進的なので、そういうのは気にならなくなる場所。世の中見渡せば、例えばシアトルだとかバンクーバー、アメリカの西海岸の北の方みたいに天候が悪い所もあるし、イギリス、アイルランドの北の方、エディンバラだとかアイルランドのゴールウェイはスカッと晴れていることを別に期待しているわけではなくて、雨にけぶる何となく薄暗いような街でも色々面白いことがあるみたいなのを多分期待して行くから気にならないんだと思う。

【高木委員】

- ・地形はある種変えられない部分もあると思うので、それをどう捉えるかが大事だと思う。ウェルビーイング先進地域を掲げているが、ウェルビーイング先進地域である北欧も決して天気は良くない。冬とかも結構しんどいぐらいだと思う。幸福と天気の関係をリサーチしてもいいかなと思ったが、だからどうやって幸せになるかという生活の知恵とか技術が発展していると考えられると思った。最近色々な地域に行ってみるのは、例えば、北国って全般的に生きていくのが大変。だから、ある意味、繊細な伝統工芸とか食文化が発展したりとか、または哲学みたいなものが生まれていて、言葉はあれだが、南の島とかで哲学とか絶対生まれないと思う。考える必要がないから。ざっくりとした大味の料理になるし。また別の話で、とある沖縄の人に聞いて、沖縄はダンススクールとかダンスの芸能人とか有名。それは、行くとみんな練習時間よりもとても早く来るらしく、とても熱心にやるが、よくよく聞いたら、何

もやることがないから来るらしい。外から見れば、沖縄の海なんて憧れだけど、その地域の人にとっては当たり前すぎて退屈だと。

- ・さっきの大腸癌とか、ある種ヘルスケアで、きつい状況になった時に富山に来たらすごく元気になるのはとてもいいと思っている。それはなぜかと言うと、富山は天気が悪くて、東京とか名古屋とか長野とかよりも日照時間が少ない、結構厳しいから逆に幸せになる技術というか知恵みたいなものがすごく育まれているというポジショニングを取ったらいいと思う。新幹線で2時間かけて行ったら、病気の時もこうやってやるといいんだということだったりとか、ヘルスケアとかそういうこと自体も、元々薬もそうだったが、もっと発展的に考えられていて、他の人に提供できるような装置産業になっているみたい。それが多分前田さんの言う観光への拡大解釈ということだと思うのだが、そうやっていくことで幸せ人口1000万をやっていくんだというストーリーもあると思う。
- ・北欧はむしろそういうことをやっているような気もするし、富山でもできないことはないのではないかと考えていて、天気が悪いからこそ知恵を働かせてきたという、ウェルビーイングになれる色々なアプローチを持っているというポジショニング、老後とかヘルスケアとか、一般的に言うとウェルビーイングスコアが下がってしまいそうなタイミングに、富山にどうかというのをやってくのはなかなかいいのではないかと考えた。

【藻谷委員】

- ・日本の県庁所在地で快晴の率が高い街と低い街という比較があって、快晴率が1番高いのは埼玉県。ただ、冬は快適だが、埼玉から館林ぐらいいにかけて1年の半分ぐらいい非常に暑い。快晴率が1番低いのは秋田とか富山ではなくて、那覇。先ほども沖縄がでてきたが、実は沖縄は日本で1番雨がが多い。なぜかと言うと、気候が日本海側だから。遮るものがなく、日本海側の気候で、さらにそこに台風がくるから。沖縄に1週間ぐらいい台風が滞在して、ずっと家から出られないということが必ず年に何回かあって、内陸部も含めて家が全て塩だらけ。実は非常に難儀。実際住んでいる人はみんな苦労しているが、いい所だよ、日が照って素晴らしいんだ、暖かいんだみたいなことしか言わないので、実は沖縄に住むと大変だということはいまだあまり知られていない。
- ・ごまかせばいいというものではないが、富山よりも日が照らない那覇の人がそうは言

っても明るく暮らしているのです、もう少し富山の人も実はそんなに悪くはないよという何かイメージ作りというのを考えた方がいいと思う。まさに沖縄と富山の違いは、地元が好きで、非常に難儀なことが多いけど悪口を言わない沖縄と、つつい地元が好きなんだけど愚痴を言ってしまう富山の違いなのではないか。あと、ちらっとおっしゃっていたように、金沢の方が雨天で遊べる場所が多いように工夫しているとかそういうことはもちろんあると思う。

【藤野委員】

- ・富山はスウェーデンみたいだという話があるが、もう1つ似ているのはデンマークかなと思っていて、デンマークにはノボノルディスクという薬品の会社があって、今非常に大きく成功していて、ヨーロッパで今1番大きな会社になっている。それまで1番大きかったのはフランスのルイヴィトン・モエ・ヘネシーだったが、メルセデスとか非常に優秀な会社がヨーロッパには多い。デンマークのノボノルディスクという会社がGLP-1というすごい薬を出して、アメリカのイーライリリーもそうだが、今世界を席卷している。それで非常に時価総額が大きくなって、デンマークの時価総額、企業価値の60%がノボノルディスクというような状態になっている。さらに、ノボだけではなくて、デンマークは非常に優秀な製薬会社が多くて、1社だけで6割なので実際だと8割から9割ぐらい製薬会社で占められていて、それで非常に大きな成長をしているし、経済も安定していて、非常に豊か。気候は、デンマークは、北欧は北欧だが少し南の分だけ多少はいいが、結構雨がちで気温の変化が高く、富山と似ているところがあると思う。
- ・そういう面で見ると、何に似せて話すかと言うと色々な言い方があるが、ヘルスケア、健康というところが結構推しだよねというのが議論で割と明確になった中で、ヨーロッパのデンマークのようなベンチマークもあるから、そういういいところに近づけて、気候が悪いみたいなところに関してもあんな感じなんだというような打ち返しができるといいと思った。

【齋藤委員】

- ・ベルギーもすごくいい。ベルギーのフランダースで、行政が今、数百億円というお金を出して、研究所をつくって世界中から研究者が来て、そのシーズ、研究成果を製

薬企業につなぐ人もいて、特許部分も全部やってくれる。なので、そこから色々な薬が出て、今1兆円以上の売上になっている。だから、行政は毎年数百億円サポートしても十分税金でカバーできる。ヨーロッパだけではなく、日本の研究者も結構いるが、世界中から研究者が来て色々な製薬企業とタイアップをしている。最初の出だしは、行政がそういった医療特区をつくって、そこでやるんだということを決めたから、それはすごいと思う。やはり、こうした形で何かやろうという時には先行投資も必要だと思うし、それをやるために制度もきちんと整えて、それからサポート体制もつくったということはずいと思う。そこまでしなくてもいいが、例えばさっき言った伝統薬、漢方薬などのこういったものを作るんだとか、そういう行政特区の様なものは富山でやってもいいと思う。

【高木委員】

- ・外から見るイメージと、実際に行ったら全然違うというか、こんなもんかという感じもあるので、ストーリーとして思い込むのは大事だと思っていて、今、幸せ人口 1000万と掲げているが、やっぱり富山は薬の富山、薬都であって、実際、企業が集積していて、スタートアップの議論もされていると思うが、富山でよーいドンでいった時に、薬のこととか結構イメージが湧きやすいと思う。産業として集積もしているし。それを発展させていって、ヘルスケア、ウェルネスという、それがある意味、得意な食も含めて、またはこういう気候とか状況も乗り越えていくためのエリアとしての知恵として位置付けるというのはありそうだった。
- ・東京とか大阪という都市部と2時間であるエコシステムとして捉えて、対比的に自分でポジションをつくるというのは大事だったと思うので、そこら辺を意識的にやっているとつくっていけると思った。

【安宅委員】

- ・雨の話がさっき出ていて、調べたら確かに富山は雨の日数が171日で日本3位。東京も107日とかでたった60日多いただけ。だから倍量とかではない。感覚論過ぎるというのが1つ。
- ・あと、富山から東京に来て一番びっくりしたことは多くの人の肌が汚いこと。明らかに富山の美肌は事実だと思う。男女問わず。だから富山のそれは売りにはできる。

- ・雨が多いといって有名な街は多分ロンドンだと思う。ロンドンは確かにいつ行っても雨が降っている印象。割と本当に霧雨だらけの所。でも、誰もあまり暗いイメージを持っていないと思う。自分が昔撮った写真をパラパラ見ていたのだが、カラフルな人間が多い。街が根本的にカラフル。大体基本的に雨なんだけど、街はこんな感じなのが普通なので、こんなの日本では見ないが、ロンドンでは普通。パブも明るくて、ビルもオレンジ、緑、赤と綺麗。センスのいいカラーリングがされて、バス停チックなものまで綺麗。ものすごくカラーリングがちゃんとできていて、デザイン都市富山としては頑張るべきところであって、まだできることはいっぱいある。駄菓子屋までカラフル。300年ぐらい経っていきそうな汚いビルまでかっこよくなっている。これはカラーリングマジックというか気合いの問題であって、これはできる。そんなに金がかからないし、楽しいし、塗りまくるのは、みんなで塗ろう富山みたいな。明るい色の建物、広々とした公園、街路灯とかライトアップとかカフェやパブが温かい雰囲気だとか、ロンドンに学んだ方がいい。日本はどこに行っても色がなくてしけた国なので、富山はカラフル、これだけでもおそらくポジショニングになる。東京も灰色の街。京都はお寺があるから面白いのであって、お寺がないと色がなくてやっぱりしけた街。なので、富山は色を入れるというのはどうか。

【朝比奈委員】

- ・グローバルに有名なジョークで、なんで天気も悪くて飯もまずいロンドンとかイギリスが世界を征服できたのかという、先ほど藤野さんがまさにおっしゃっていたが、どんどんみんな外に出ていったから。留学している時にイタリア人とイギリス人が喧嘩しているのを見たことがあるが、イタリア人からみるとまさに古代ローマ時代からすると、ブリタニアはとてつもない辺境の地で、カエサルが1回か2回行ったことあるとか、行ってやったくらいの喧嘩をしているのに衝撃を受けたことがある。そのイギリスと比べるとまさに富山は天気はそうかもしれないが、飯は非常にうまいわけ。そういう中でどんどん外に出て行って、新しい人を連れて来る。ロンドンのダイナミズムとかイギリスもまさに連れて来る方法が良かったかどうかは色々歴史の問題があると思うが、本当に多様な外国人をたくさん連れて来ているわけであって、先ほどの藤野さんの話と今の安宅さんの話をつなげると、非常に富山の可能性がイギリスから見えてくる。飯がうまくて、さっきカラフルという話もあったが、新しい医療とか、

色々な可能性で連れて来ることができて、非常に夢があると思った。

【高木委員】

- ・富山が持っているアセットはみんな共有で分かっていると思うので、どちらかという
と、都会とか外に住んでいる人のライフシーンでどのタイミングでどういう場面で来
てもらうか、それが持っているアセットとうまくはまりそうか、はめられそうか。今
日はヘルスケアとか、そういうものがヒントになりそうだなということだった。なん
となく焦点は合ってきている気がする。

【安宅委員】

- ・それに対応してくと勝手に産業が育つと思うが、さっき中村委員がおっしゃった大腸
メガチェッカーマシンみたいなホスピタルとかすごいと思う。一大産業になる。検査
終わったら気持ちいい所に行って、1日ぐらいは素麺でも食べてその後はおいしいも
のを食べればいいわけだから、とてもよい。